

観音寺中学校 道徳通信 12月号

寒さが一段と深まり、今年も残りわずかとなりました。子どもたちは日々の学習や生活に丁寧に取り組みながら、1年の締めくくりに向けて頑張っています。

1年生では、「思いやりの日々」、「ごみ箱をもっと増やして」、「銀色のシャープペンシル」の授業を行いました。その中でも、「ごみ箱をもっと増やして」を紹介します。

ごみ箱をもっと増やして【公德心】

日本の街の中にごみ箱がもっと必要かについて、賛成か反対の意見を読み、自分がどっちかを考えました。また、ごみだらけの世界遺産の写真(AI)とごみ箱だらけの世界遺産の写真(AI)を見比べて、再度、ごみ箱を増やすことに賛成か反対かを考えました。



○ 授業を通しての感想（生徒記述より）

ごみ箱を作って捨てられるようにするのもいいけれど、ごみを出さない工夫をして、捨てられていたら拾って自分から捨てるようにすればいいと思いました。それに1人1人がごみを持ち帰るように意識すればよりよい社会になると思いました。

自分たちでごみの分別や、ペットボトルのラベルを外してから捨てる、、、といった環境に優しい工夫をすることが大切。ごみ箱をできるだけ増やさなくていいように美意識を大切にしていきたい。ポイ捨てをするような常識のない大人には絶対になりたくない。

自分自身でごみを減らすための工夫をした方がいいなと思いました。意識するだけで、だいぶごみを減らすことができると思いました。

ごみ箱をたくさん置くこともいいけれど、まずは1人1人がごみを拾ったり、ごみを自分で持って帰ることなどをすればよりよい社会になると思いました。対策なども大切ですが、まず自分たちのできることをすれば少しでも変わると思いました。

ごみ箱があると、ポイ捨てが減るかもしれないけれど、ポイ捨ては1人1人が意識して、自分のごみは自分で持ち帰ることができたら、ごみ箱を立てるお金や回収費なども減るし、景観がよくなるとうわたり、自分の意見がゆさぶられました。

1人1人が意識して、ごみを捨てないようにすれば、ごみ箱を増やす、増やさないという問題も出てこないから大人も子どもも捨てないようにすればよいと思う。ごみ箱は大事だけど、ポイ捨てやごみが増えることによって、賛成・反対という問題ができると分かったのでポイ捨てをしないようにしたいと思いました。

そもそも私たちがごみを「捨てる」から「持って帰る」という考えにした方がいいなと思いました。1人1人が意識して、ごみ問題に向き合うことが大切だとわかりました。

私が何か1つ悪いことをしても変わらないという気持ちを持つのではなく、私1人が変われば、少しでも変わると思って、これからは生活の中で意識して、過ごしていくようにしたいです。

道徳通信 11月号の返信より

- 体験できることは素晴らしいと思います。自分にあった、自分のやりたい仕事をして欲しいです。
- 働くことは、単に報酬を得ること以上に、一人ひとりを手助けし、笑顔にすることで、やりがいや活力に繋がることだと思います。一人ひとりのニーズに応えたり、満足度を上げるためには、自分自身も経験を積み重ねるなど、継続的な取組みを実践する必要があると思いました。
- みなさんの感想文を読んで、しっかりとした考えを持っているなと感心しました。何のために働いて頑張っているのか、大人もしっかりと背中を見せていきたいですね。何気ない日常生活の全てが家族や働く人たちによって支えられていることに感謝して、自分のやりたいことを見つけてほしいと思います。
- 生徒さんたちの感想を読んで、びっくりしました。福祉関係の仕事の内容だからなのか、すごくしっかりした内容ばかりでした。自分の仕事も人のための仕事なので、自分で出来ることから、どんなことが出来るか考えたいと思いました。
- 働く事は、人の幸せや社会の役に立つ事であり、自分の利益ばかりを追い求めるものではないという事に気づける話ですね。進路を考える機会の多い中学生の皆さんも、この気持ちを心に置いて、将来、社会で活躍して欲しいと願っています。

ご返信、ありがとうございました♪

ご感想やご意見がございましたら、LEBER（リーバー）のアンケート「返信欄」にてお気軽にご回答ください。たくさんのご返信をお待ちしております。